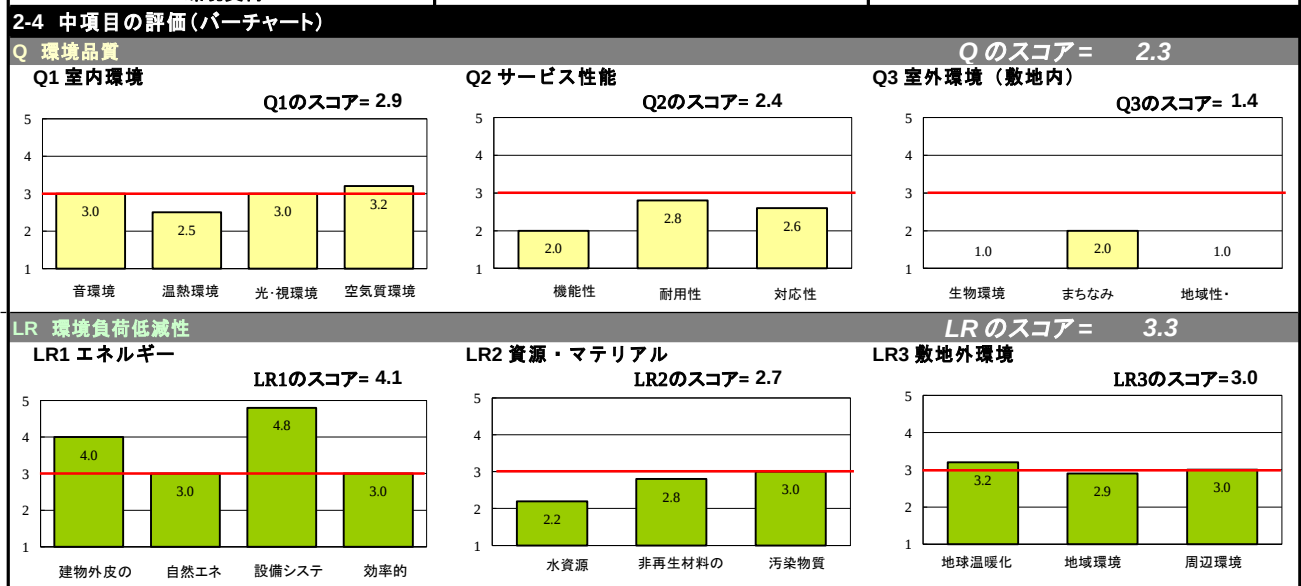
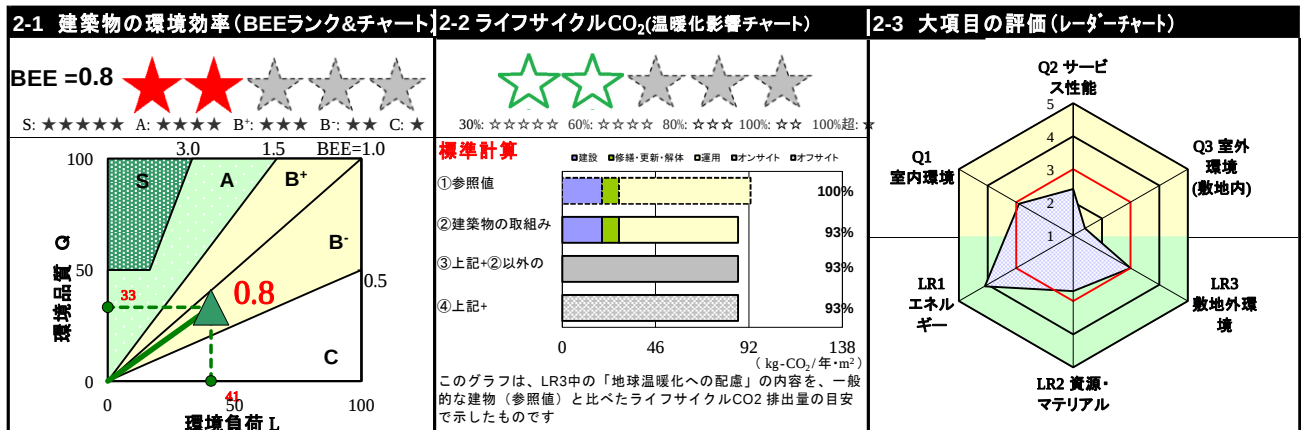


CASBEE®-建築(新築)

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v4.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)東大阪市新家二丁目マンション	階数	地上10F
建設地	大阪府東大阪市新家	構造	RC造
用途地域	準工業地域、準防火地域	平均居住人員	171 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2027年8月 予定	評価の実施日	2025年10月14日
敷地面積	1,698 m ²	作成者	高木
建築面積	540 m ²	確認日	2025年10月14日
延床面積	3,892 m ²	確認者	高木



3 設計上の配慮事項		
総合 建物の維持管理のしやすさ、長寿命化、省エネルギー性能の確保、地域景観への配慮		その他 特になし。
Q1 室内環境 遮音等級T-1のサッシを採用し、室内環境へ配慮した。	Q2 サービス性能 耐用年数の長い配管材を採用し、建物の長寿命化に配慮している。	Q3 室外環境 (敷地内) 敷地内に出来る限り、緑地を配置した。
LR1 エネルギー LED照明を採用し、エネルギーへ配慮した。	LR2 資源・マテリアル 躯体と仕上げ材が容易に分別可能であり、内装材と設備との錯綜を回避し、部材の再利用の可能性を高めている。	LR3 敷地外環境 適切な量の駐車場を確保した。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

【建物概要】 建物名称		(仮称)東大阪市新家二丁目マンション					
建設地		大阪府東大阪市新家					
用途／区分		集合住宅					
【評価結果】	CASBEE 総合評価					B-	
①	CO2削減					3	
②	みどり・ヒート アイランド対策					1	
③	断熱性能					4	
	建築物省エネ法に基づく 省エネ性能ラベル	住宅(住棟)又は 複合建築物の住宅部分				4	
④	エネルギー消費性能					5	
	建築物省エネ法に基づく 省エネ性能ラベル	住宅(住棟)又は 複合建築物の住宅部分				1	
		評価対象外				評価対象外	
⑤	自然エネルギー直接利用					○	
	再生可能エネルギー	太陽光発電	—	風力	—	地熱	—
	利用施設の導入状況	太陽熱利用	—	水力	—	バイオマス	—
エネルギー消費量の報告						対象外	
【評価項目】							
項目	評価内容					スコア	評価
① CO2削減	CASBEE LR3 敷地外環境 1. 地球温暖化への配慮					3.2	3
② みどり・ヒートアイランド対策							
生物環境の保全と創出	CASBEE Q3 室外環境(敷地内) 1. 生物環境の保全と創出					1.0	1
敷地内温熱環境の向上	CASBEE Q3 室外環境(敷地内) 3.2 敷地内温熱環境の向上					1.0	
温熱環境悪化の改善	CASBEE LR3 敷地外環境 2.2 温熱環境悪化の改善					2.0	
③ 断熱性能	CASBEE LR1 エネルギー 1. 建物外皮の熱負荷抑制					4.0	4
④ エネルギー消費性能	CASBEE LR1 エネルギー 3. 設備システムの効率化					4.8	5
⑤ 自然エネルギー利用	CASBEE LR1 エネルギー 2. 自然エネルギー利用					3.0	○
エネルギー消費の実態把握に努める	エネルギー消費量の実績を3年間報告する。					報告する 報告しない	-
その他							
先進的技術の導入	技術の名称			考慮事項			
特に配慮した事項							